

# One 割安日本株ファンド

## 追加型投信／国内／株式

### 受益者の皆さまへ

毎々格別のお引立てに預かり厚くお礼申し上げます。

当ファンドは、わが国の上場株式の中から、相対的に割安と判断される銘柄へ投資し、相対的に高い配当収入と値上がり益を獲得することをめざして運用を行います。

当作成対象期間につきましても、これに沿った運用を行いました。ここに、運用経過等をご報告申し上げます。

今後とも一層のご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。

作成対象期間 2025年6月24日～2025年12月22日

第161期	決算日：2025年7月22日	
第162期	決算日：2025年8月21日	
第163期	決算日：2025年9月22日	
第164期	決算日：2025年10月21日	
第165期	決算日：2025年11月21日	
第166期	決算日：2025年12月22日	
第166期末 (2025年12月22日)	基準価額	35,116円
	純資産総額	33,191百万円
第161期～ 第166期	騰落率	30.2%
	分配金合計	180円

(注1) 騰落率は分配金再投資基準価額の騰落率を表示しています。

(注2) △ (白三角) はマイナスを意味しています (以下同じ)。

当ファンドは投資信託約款において、運用報告書(全体版)を電磁的方法によりご提供する旨を定めております。運用報告書(全体版)は、下記のホームページにアクセスし、「基準価額一覧」等から当ファンドの名称を選択いただき、ファンドの詳細ページから閲覧、ダウンロードすることができます。また、運用報告書(全体版)は受益者のご請求により交付されます。交付をご請求される方は、販売会社までお問い合わせください。

### ■運用報告書に関するお問い合わせ先

コールセンター **0120-104-694**

(受付時間：営業日の午前9時から午後5時まで)

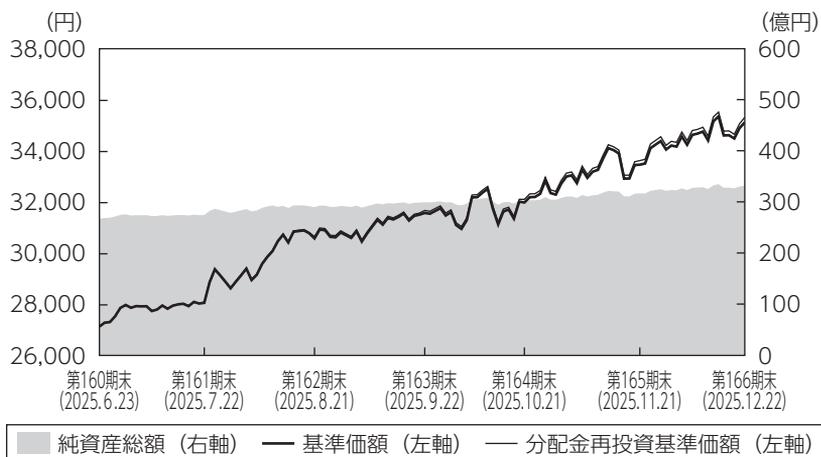
お客さまのお取引内容につきましては、購入された販売会社にお問い合わせください。

アセットマネジメントOne 株式会社

東京都千代田区丸の内1-8-2 <https://www.am-one.co.jp/>

## 運用経過の説明

### 基準価額等の推移



第161期首：27,130円  
 第166期末：35,116円  
 (既払分配金180円)  
 騰落率：30.2%  
 (分配金再投資ベース)

- (注1) 分配金再投資基準価額は、税引前の分配金を再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- (注2) 分配金を再投資するかどうかについてはお客さまがご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。従って、お客さまの損益の状況を示すものではありません。
- (注3) 分配金再投資基準価額は、期首の基準価額に合わせて指数化しています。
- (注4) 当ファンドはベンチマークを定めておりません。

### 基準価額の主な変動要因

当ファンドは、株価収益率（P E R）、株価純資産倍率（P B R）、配当利回りなどの株価バリュエーションを重視した銘柄選択をしています。基準価額は、7月の日米関税交渉の合意、米国での利下げ期待、10月の自民党総裁選での高市氏勝利、生成AI関連銘柄の成長期待の高まりなどを背景に堅調に推移したことに加え、保有していた豊田通商、住友電気工業、横浜ゴムなどの株価上昇がプラスに働き、上昇しました。

## 1 万口当たりの費用明細

項目	第161期～第166期 (2025年6月24日 ～2025年12月22日)		項目の概要
	金額	比率	
	(a) 信託報酬	198円	
(投信会社)	( 93)	(0.297)	
(販売会社)	( 93)	(0.297)	
(受託会社)	( 12)	(0.038)	
(b) 売買委託手数料	5	0.017	(b) 売買委託手数料＝期中の売買委託手数料÷期中の平均受益権口数 売買委託手数料は、組入有価証券等の売買の際に発生する手数料
(株式)	( 5)	(0.017)	
(c) その他費用 (監査費用)	0 ( 0)	0.001 (0.001)	(c) その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数 監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査にかかる費用
合計	203	0.649	

(注1) 期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は追加・解約によって受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

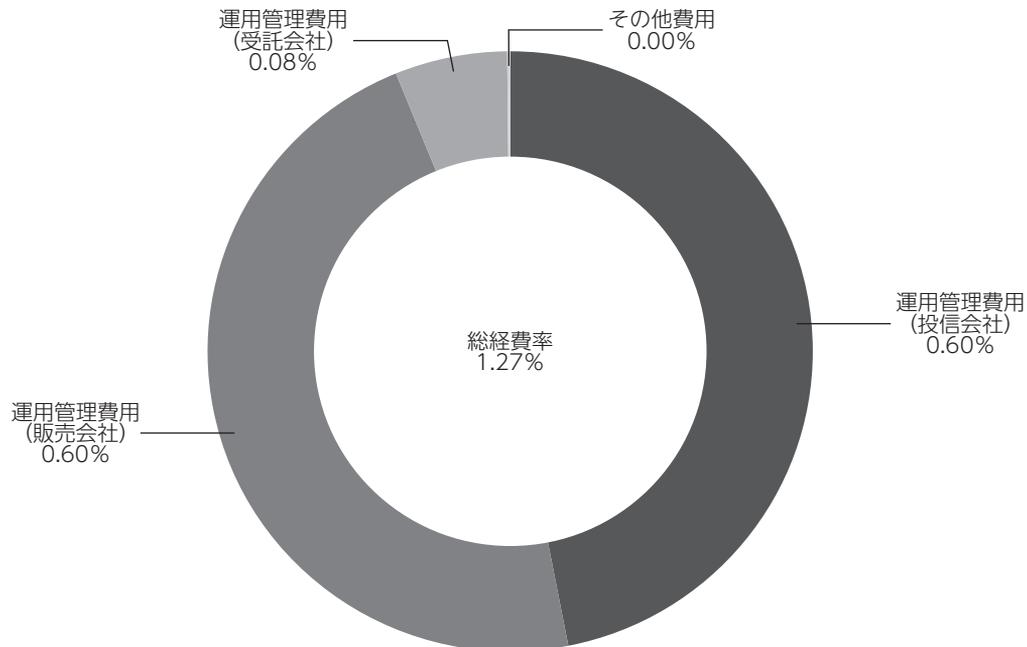
(注2) 金額欄は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注3) 比率欄は「1万口当たりのそれぞれの費用金額」を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

**(参考情報)**

## ◆総経費率

当作成期中の運用・管理にかかった費用の総額を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した総経費率（年率）は1.27%です。



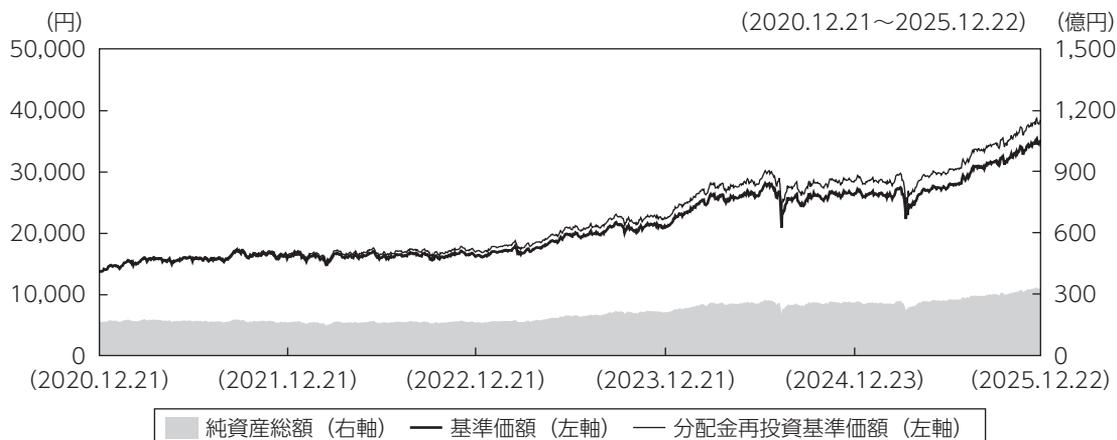
(注1) 1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注2) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。

(注3) 各比率は、年率換算した値です。

(注4) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率と異なります。

## 最近5年間の基準価額等の推移



- (注1) 分配金再投資基準価額は、税引前の分配金を再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものではありません。
- (注2) 分配金を再投資するかどうかについてはお客さまがご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。従って、お客さまの損益の状況を示すものではありません。
- (注3) 分配金再投資基準価額は、2020年12月21日の基準価額に合わせて指数化しています。

		2020年12月21日 期首	2021年12月21日 決算日	2022年12月21日 決算日	2023年12月21日 決算日	2024年12月23日 決算日	2025年12月22日 決算日
基準価額 (分配落)	(円)	13,919	16,041	16,130	20,907	26,397	35,116
期間分配金合計 (税引前)	(円)	—	360	360	360	360	360
分配金再投資基準価額の騰落率	(%)	—	17.9	2.8	32.1	28.1	34.7
純資産総額	(百万円)	16,715	16,129	16,061	21,079	26,043	33,191

(注) 当ファンドのコンセプトに適した指数が存在しないため、ベンチマークおよび参考指数を定めておりません。

## 投資環境

当作成期の株式市場は、期初から期末まで堅調に推移しました。米国が4月に発表した相互関税策に対する懸念があったものの、7月に日米関税交渉が合意し企業業績に対する不透明感が後退したことに加え、企業決算においても関税影響が当初想定よりも軽微にとどまりそうであったことがプラスに働きました。また、米国での利下げ、高市新政権の誕生、生成AI関連銘柄の成長などに対する期待も株式市場に対する後押し要因となりました。

## ポートフォリオについて

銘柄選択については、株価収益率、株価純資産倍率、配当利回りなどの株価バリュエーションを重視し、個別企業の調査を通じ業績を精査して、株価水準に魅力があると判断した企業に投資しました。個別企業の調査では、株主還元を積極的に行い資本効率改善に取り組む企業、原材料費、人件費などのコスト上昇を価格に転嫁できる企業、独自の成長要因があり中期的に業績改善が見込まれる企業などを調査し、投資を行いました。

### 【運用状況】

#### ○組入上位10業種

No.	業種	比率
1	電気機器	14.0%
2	銀行業	11.4
3	卸売業	9.9
4	建設業	8.1
5	化学	6.8
6	輸送用機器	6.5
7	その他金融業	4.4
8	保険業	4.3
9	ガラス・土石製品	4.0
10	非鉄金属	3.1

(注1) 比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

(注2) 業種は東証33業種分類によるものです。

## 分配金

収益分配金につきましては運用実績等を勘案し、以下の表の通りとさせていただきます。なお、収益分配金に充てなかった利益は信託財産内に留保し、運用の基本方針に基づいて運用いたします。

### ■分配原資の内訳（1万口当たり）

項目	第161期	第162期	第163期	第164期	第165期	第166期
	2025年6月24日 ~2025年7月22日	2025年7月23日 ~2025年8月21日	2025年8月22日 ~2025年9月22日	2025年9月23日 ~2025年10月21日	2025年10月22日 ~2025年11月21日	2025年11月22日 ~2025年12月22日
当期分配金（税引前）	30円	30円	30円	30円	30円	30円
対基準価額比率	0.11%	0.10%	0.09%	0.09%	0.09%	0.09%
当期の収益	30円	30円	30円	30円	30円	30円
当期の収益以外	-円	-円	-円	-円	-円	-円
翌期繰越分配対象額	21,059円	23,559円	24,548円	24,955円	26,420円	28,058円

(注1) 「当期の収益」および「当期の収益以外」は、小数点以下切捨てで算出しているためこれらを合計した額と「当期分配金（税引前）」の額が一致しない場合があります。

(注2) 当期分配金の「対基準価額比率」は「当期分配金（税引前）」の期末基準価額（分配金込み）に対する比率で、ファンドの収益率とは異なります。また、小数点第3位を四捨五入しています。

(注3) 「当期の収益」は「経費控除後の配当等収益」および「経費控除後・繰越欠損補填後の売買益（含、評価益）」から分配に充当した金額です。また、「当期の収益以外」は「分配準備積立金」および「収益調整金」から分配に充当した金額です。

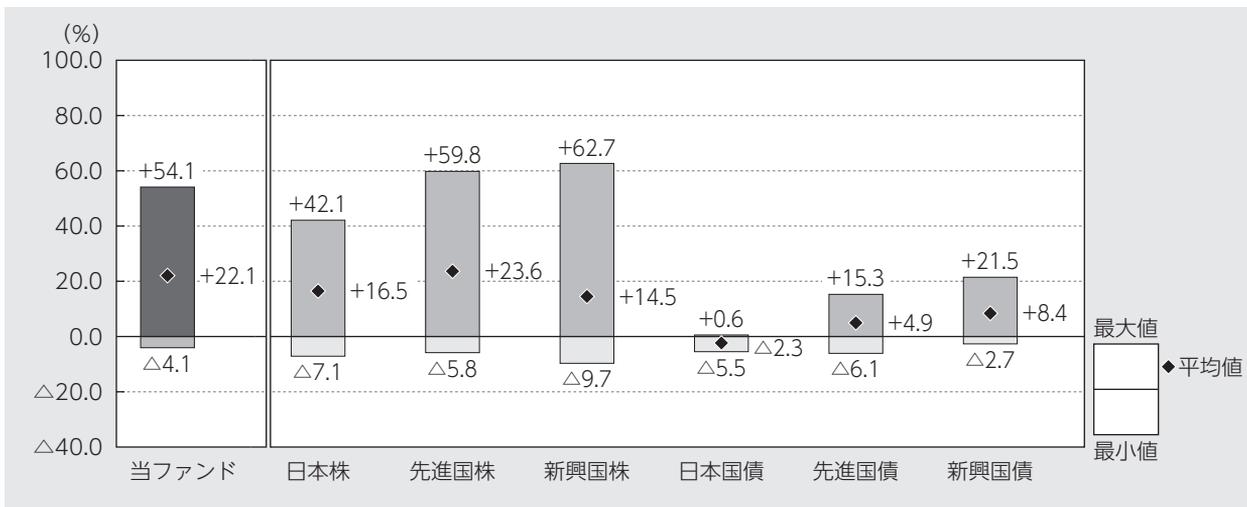
## 今後の運用方針

今後の国内株式市場は、堅調な推移を想定します。米国での利下げ期待、高市政権の経済政策への期待、国内企業業績の改善、過去最高水準の株主還元実施といった企業価値向上に向けた経営改革の進展などがプラスに働くとみています。そうしたなか、引き続き、配当利回り、PBR、今・来期PERなどの株価指標が割安と判断する銘柄の中から、今後の業績拡大が期待できる銘柄を中心に組み入れる方針です。

## 当ファンドの概要

商品分類	追加型投信／国内／株式
信託期間	2012年2月23日から2027年2月22日までです。
運用方針	信託財産の成長を図ることを目的として、運用を行います。
主要投資対象	わが国の株式を主要投資対象とします。
運用方法	わが国の上場株式の中から、相対的に割安と判断される銘柄へ投資し、相対的に高い配当収入と値上がり益の獲得をめざします。 銘柄選択にあたっては、配当利回り、PBR（株価純資産倍率）等から株価のバリュエーションが割安と判断される銘柄を中心に抽出します。 組入れにあたっては、個別企業の経営戦略や成長性等の企業のファンダメンタルズ等を評価し、投資魅力度の高い銘柄へ投資します。 株式の組入比率は、原則として高位を維持します。
分配方針	決算日（原則として毎月21日。休業日の場合は翌営業日。）に、経費控除後の配当等収益および売買益（評価益を含みます。）等の中から、基準価額水準、市況動向等を勘案して、分配金額を決定します。原則として配当等収益等を中心に分配を行うことを基本とします。ただし、分配対象額が少額の場合は分配を行わない場合があります。また、毎年6月および12月の決算時には、上記分配相当額に委託会社が決定する額を付加して分配する場合があります。

## 代表的な資産クラスとの騰落率の比較



2020年12月～2025年11月

(注1) すべての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。

(注2) 上記期間の各月末における直近1年間の騰落率の平均値・最大値・最小値を、ファンドおよび代表的な資産クラスについて表示し、ファンドと代表的な資産クラスを定量的に比較できるように作成したものです。なお、上記の騰落率は決算日に対応した数値とは異なります。

(注3) 当ファンドの騰落率は、税引前の分配金を再投資したもとして計算しています。

### \*各資産クラスの指数

日本株…東証株価指数 (TOPIX) (配当込み)

先進国株…MSCIコクサイ・インデックス (配当込み、円ベース)

新興国株…MSCIエマージング・マーケット・インデックス (配当込み、円ベース)

日本国債…NOMURA-BPI国債

先進国債…FTSE世界国債インデックス (除く日本、円ベース)

新興国債…JPモルガンGBI-EMグローバル・ディバースィファイド (円ベース)

(注) 海外の指数は為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しております。

※各指数については後掲の<代表的な資産クラスとの騰落率の比較に用いた指数について>をご参照ください。

## 当ファンドのデータ

### 当ファンドの組入資産の内容（2025年12月22日現在）

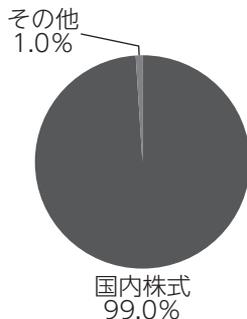
#### ◆組入上位10銘柄

銘柄名	通貨	比率
三菱UFJフィナンシャル・グループ	日本・円	5.1%
豊田通商	日本・円	4.4
三井住友フィナンシャルグループ	日本・円	4.0
トヨタ自動車	日本・円	3.7
ソニーグループ	日本・円	3.5
東京海上ホールディングス	日本・円	3.2
住友電気工業	日本・円	3.1
関電工	日本・円	2.7
オリックス	日本・円	2.7
三菱電機	日本・円	2.6
組入銘柄数	73銘柄	

(注1) 比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

(注2) 組入全銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書（全体版）に記載されています。

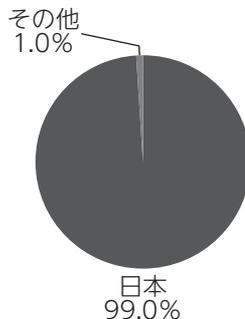
#### ◆資産別配分



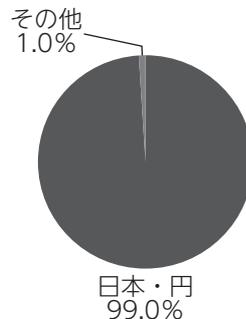
(注1) 比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

(注2) 現金等はその他として表示しています。

#### ◆国別配分



#### ◆通貨別配分



## 純資産等

項目	第161期末	第162期末	第163期末	第164期末	第165期末	第166期末
	2025年7月22日	2025年8月21日	2025年9月22日	2025年10月21日	2025年11月21日	2025年12月22日
純資産総額	27,468,649,101円	28,987,128,351円	29,970,056,688円	30,225,809,808円	31,669,157,756円	33,191,892,605円
受益権総口数	9,790,154,575口	9,478,748,834口	9,491,508,606口	9,451,147,934口	9,463,941,572口	9,452,095,963口
1万円当たり基準価額	28,057円	30,581円	31,576円	31,981円	33,463円	35,116円

(注) 当作成期間（第161期～第166期）中における追加設定元本額は735,754,745円、同解約元本額は1,132,088,071円です。

## <代表的な資産クラスとの騰落率の比較に用いた指数について>

- 「東証株価指数（TOPIX）」は、日本の株式市場を広範に網羅し、投資対象としての機能性を有するマーケット・ベンチマークです。同指数の指数値および同指数にかかる標章または商標は、株式会社JPX総研または株式会社JPX総研の関連会社（以下「JPX」という。）の知的財産であり、指数の算出、指数値の公表、利用など同指数に関するすべての権利・ノウハウおよび同指数にかかる標章または商標に関するすべての権利はJPXが有しています。
- 「MSCIコクサイ・インデックス」は、MSCI Inc. が開発した株価指数で、日本を除く世界の主要先進国の株価指数を、各国の株式時価総額をベースに合成したものです。同指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利はMSCI Inc. に帰属します。また、MSCI Inc. は同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。
- 「MSCIエマージング・マーケット・インデックス」は、MSCI Inc. が開発した株価指数で、新興国の株価指数を、各国の株式時価総額をベースに合成したものです。同指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利はMSCI Inc. に帰属します。また、MSCI Inc. は同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。
- 「NOMURA-BPI国債」は、野村フィデューシャリー・リサーチ&コンサルティング株式会社が国内で発行された公募利付国債の市場全体の動向を表すために開発した投資収益指数です。同指数の知的財産権その他一切の権利は野村フィデューシャリー・リサーチ&コンサルティング株式会社に帰属します。なお、野村フィデューシャリー・リサーチ&コンサルティング株式会社は、同指数の正確性、完全性、信頼性、有用性を保証するものではなく、ファンドの運用成果等に関して一切責任を負いません。
- 「FTSE世界国債インデックス（除く日本）」は、FTSE Fixed Income LLCにより運営され、日本を除く世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した債券インデックスです。同指数はFTSE Fixed Income LLCの知的財産であり、指数に関するすべての権利はFTSE Fixed Income LLCが有しています。
- 「JPモルガンGBI-EMグローバル・ディバーシファイド」は、J. P. モルガン・セキュリティーズ・エルエルシーが公表している新興国の現地通貨建ての国債で構成されている時価総額加重平均指数です。同指数に関する著作権等の知的財産その他一切の権利はJ. P. モルガン・セキュリティーズ・エルエルシーに帰属します。また、同社は同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。

